

# 第五回

第116号  
25・3・10

発行 編集委員会  
事務局 荏原第五地域センター  
TEL 3785-2000

歴史を刻んで133年

## ありがたう杜松

品川区荏原東地区の小中一貫校の開設、4月に「豊葉の杜学園」が開校します。一貫校開校により明治から歴史と伝統のある杜松小学校は3月31日で閉校となります。江戸時代末から「寺子屋」が始められてから150年余、明治12年に「公立杜松小学校」になってから歴史と伝統を刻んで133年。今日まで歩んできた足跡の一部を記しました。

### 杜松小学校のはじまり

蛇窪村を治めていた伊藤家の清一郎先生が自分の屋敷に村の子どもたちを集め「読み・書き」といわれる稽古事をする寺子屋を江戸時代末から始めました。



この寺子屋が杜松小学校の始まりとなりました。

清一郎先生は書が有名であつてその雅号は「杜松齋」を、品川で作られた俳壇での俳号は「景湖」をもつていました。

清一郎先生の没後、長男の受房先生が引き継ぎ、ますますさかえた寺子屋は伊藤塾と呼ばれました。

伊藤塾は明治5年に地主の金子市兵衛先生家に移り名前が金子塾に変わりました。

明治7年に金子塾は東光寺に移転、萩野弁道任職が勉強を教え、明治10年まで続けられました。

### 公立杜松小学校の誕生

明治7年、品川に品川小・城南小の二つの小学校ができました。

そこで、「蛇窪村にも小学校をつくろう」と村の人たちが相談して旧古河電工研究所があつた場所に建てることになり、村の人たちがお金の準備や工事の手伝いなどの協力により、たった一つの教室でしたが校舎ができました。

蛇窪村のあたりは畑や竹藪が多く、わずかな農家があるだけのさびしい所でした。

そのため校舎はできても寺子屋のまま、学校にはなかなかなりませんでしたが、しかし、村の人たちの努力と願いがかない明治12年に杜松齋先生の名前をもらい公立杜松小学校という小学校が誕生しました。

### すずめの学校

月日がたつとともに木造校舎は古くなつ

### 地域の期待を受けて一世紀半

明治12年からの公立学校として133年、それ以前の伊藤清一郎先生の江戸時代からの寺子屋(私塾)から数えると150年位という長い間、地域に暮らす子供たちの未来のために、という熱い期待を受け、本校は多くの保護者、教職員、地域の方々に支えられ脈々とその歴史を重ねてきました。

### 途中、子供の数の増加に伴う大原小学校

(大正15年)、大間窪小学校(昭和3年)で、いたみがひどく校舎を建て直すことになり、明治37年に現・豊町3丁目に新しい校舎が完成しました。校舎は、竹藪の中にありすずめの学校と呼ばれました。



すずめの学校時代の「大正6年」に「笹りんどう」の校章ができました。

### マンモス学校

大正7年頃から蛇窪への転入者が増え、また児童数も増加して教室不足となり新校舎を建築することになり、大正11年に現校地(豊町4丁目)に新校舎が完成しました。

関東大震災後、児童数は大正13年に1924名、大正14年は2365名と増えて、マンモス学校となり再び教室不足となりました。大正15年に新しく大原小学校を造り約1000人の児童が、昭和3年には再度新しく大間窪小学校を造り約2000人の児童が別れていきました。

杜松は習字が有名で『書道の杜松』とい

### 品川区立杜松小学校

校長 菊地勇之輔

の開校による別れや、戦争中の校舎焼失による苦難、地域の方の熱意による校舎再建という支えを得て、今に至りました。

この度、再び大間窪小学校と一緒に、新しい時代に地域の子供たちのために出発することとなりました。

「大銀杏」とともに、いつまでも子供たちを見守っていただけなら幸いです。

われ日本中に知られていました。

### 学童集団疎開

太平洋戦争で東京の空襲が激しくなり、第1次学童集団疎開は昭和19年8月に静岡県内の5寺に、昭和20年4月には第2次で富山県の2寺に疎開して生活しました。

### 戸越小学校間借り

昭和20年5月24日の空襲で校舎は全焼してしまいました。

終戦後、焼け残った戸越国民学校に大間窪国民学校と共に間借りをしました。

昭和23年にバラック校舎が建ち、戸越小学校から引越をしました。

### バラックから現校舎まで

バラック校舎は不具合、不便が多かったが大事に使用しました。昭和25年以降何度かの建て替えなどを経て、昭和50年5月に現在の3階建て校舎が完成しました。

(B面につづく)

みなさんの新聞です。1部ずつお取り下さい。



⑤ すずめの学校

(現・豊町3-3)

明治37年、新しい校舎が完成。竹やぶの中にあつたので「すずめの学校」と呼ばれた。



④ 公立杜松小学校

(現・二葉2-9)

明治10年、村の人たちも協力して小さな校舎ができた。その後、再度の協力と願いで明治12年に公立杜松小学校になった。



③ 東光寺

(現・二葉1-14)

明治7年に金子塾は東光寺に移転。住職の萩野弁道が「読み・書き」のけいこをした。



② 金子塾

(現・豊町4-5)

明治5年、寺子屋は地主の金子市兵衛先生の家に移転し、金子塾に名前が変わった。



① 寺子屋 (伊藤塾)

(現・豊町3-10)

江戸時代、伊藤清一郎先生の自宅に村の子どもを集めて「読み・書き」のけいこを始めた。寺子屋と呼ばれた。



⑥ 杜松小学校

(現・豊町4-24)



木造2階建校舎 (昭和31年)

昭和20年5月24日の空襲で校舎は全焼。昭和23年にバラック校舎が完成。昭和50年5月に現在の校舎が完成した。



現在の校舎 (平成24年)



現校舎時代	戸越小間借り・バラック校舎時代	戦時中疎開時代	マンモス学校時代	すずめの学校時代	旧古河電工研究所校地時代 (現・NFパークビル)	寺子屋時代	133年の歩み区分
2013	58 57	46 45	36 35	23 22	04 1903	75 74	1868
平成 25	33 32	22 21	20 18 16	11 10 7	昭和 2 15 14 13	大正 37 36 19 14 12 11 9 8 7	明治
<p>東京府品川区立杜松小学校 東京都杜松国民学校 東京府東京市杜松国民学校</p> <p>東京府荏原郡杜松尋常高等小学校 東京府東京市杜松尋常高等小学校</p> <p>東京府荏原郡杜松尋常高等小学校 東京府荏原郡杜松尋常小学校</p>							明治時代に創立した学校 (品川区区内)
<p>大間窪小学校開校</p> <p>大原小学校開校</p>							児童数増加で新設した学校
<p>児童数 (人)</p> <p>1418 1600 1754 580 1300 1924 2365</p>							

**第115号訂正のお知らせ**  
 荏原第五地区標高図の標高について一部本年2月に確認の数値に変更させていただきます。  
 訂正図は地域センターの窓口用意しています。

**第115号お年玉クイズ**  
 答は『とごし(き)(き)商店街』でした。  
 正解者の中から抽選により当選の10名に賞品をお届けしました。

**(仮) 荏原東地区地域複合施設 豊葉の杜学園が完成**  
 平成23年8月に工事着工し、建設が進められてきました。園庭・グラウンド・外構工事を残して建物は3月に完成。  
 4月より小・中一貫校及び二葉すこやか園が開校・開園します。

**ひり言**  
 小・中学校を同じ校舎で学ぶあつた友と毎年開催している同窓会。みんな白髪や皺がかなり目立つ年齢だが、会話が弾み共に校歌を歌っていると気持は幼い頃に戻ってしまうから不思議だ。「ならぬことはならぬものです。」の心を育んだ津藩ゆかりの猪苗代町野口英世の生家に近い学校跡地には町の施設が建てられ、校舎の面影はほとんどなくなっているが、私たちの学び舎は友の存在と共に今も心のなかに朽ちることなく厳然とそびえ立っている。  
 中島

古紙を配合した紙を使用しています